

第1回 和束町総合保健福祉施設整備検討委員会

< 会 議 録 >

日 時 : 平成30年12月17日 午後8時～午後10時

場 所 : 和束町商工会館 研修室

出席委員 : 畑 武 志 和束町議会 議会運営委員長
竹内 きみ代 和束町議会 総務厚生常任委員長
谷口 知 弘 福知山公立大学教授
三 沢 あき子 京都府山城南保健所長
(代理出席 京都府山城南保健所企画調整室長 木下 直子)
柳 澤 衛 相楽医師会和束町班長
桐 山 藤重郎 和束町国民健康保険診療所長
吉 田 輝 雄 和束町社会福祉協議会長
矢 野 光 江 和束町民生児童委員協議会副会長
岩 崎 宗 雄 和束町老人クラブ連合会副会長
岡 田 勇 和束町身体障害者協議会長

傍 聴 者 : なし

[会議内容]

1. 委嘱書交付

2. 町長挨拶

会議開会に当たり堀 和束町長から挨拶。

3. 和東町総合保健福祉施設整備検討委員会の設置について

下記資料をもとに、事務局より説明。

資料1 和東町総合保健福祉施設整備関係例規等

4. 委員紹介

事務局より委員名簿により紹介。

5. 委員長・副委員長の選任について

谷口委員が委員長に、岩崎委員が副委員長に選出された。

6. 和東町総合保健福祉施設整備基本構想について

1) 構想策定の目的

2) 検討の内容

3) 検討の体制

4) 検討のスケジュール

5) ワーキングチーム会議・プロジェクトチーム会議の協議結果

下記資料をもとに、事務局より説明。

資料2 和東町総合保健福祉施設整備基本構想（会議資料）

資料3 茶源郷づくり推進プロジェクトチーム&総合保健福祉施設整備検討ワ

ーキングチーム<検討要旨>

資料4 （仮称）総合保健福祉施設の検討に関する参考事例

7. 意見交換

「6」と「7」を合わせて意見交換の内容は以下の通りである。

委員： 今回示された資料2について、一部データが古いものがあり直近のデータで整理すべきである。また、資料4の参考事例は今回の参考事例としてはふさわしくないのではないかと。京都府の山間部の事例を調べた方がいい。また、今後人口は減少するということが念頭においた議論が必要である。

事務局： 資料2については、直近データを調べる。資料4については、次年度調査で事例調査を行うことになっており、今回はイメージをもってもらうためのものを提示しており、今後の課題としたい。

町長： 人口減の大きな要因である社会減は厳しい状況にある。今後は定住を促進し移住も考えていきたい。和束町の基幹産業は800年の歴史を持つ「お茶」であり、産業をなんとかする必要がある。高齢化も進行している。今回の総合保健福祉施設の検討に当たっては、住民の交流機能も検討していくべきと考えている。さらにいえば、「まちづくり」の拠点施設と位置付けたい。

委員： 今後宇治田原町とのトンネルもできることになり、新しいまちづくりを考える時にきている。人口減だけを前提にした議論ではだめだと思う。

委員： 但し、想定される人口の規模は念頭おいた議論は必要だろう。

委員長： 和束町の人口については様々な視点から検討された「人口ビジョン」の見通しを前提に考えてよいと思われる。他自治体で無理に作った「人口ビジョン」が現状に合わずに問題になっている例もある。

委員： 資料2で、このような検討には通常5年程度のスパンが必要とあるがどのような意味か。

事務局： 基本構想・基本計画に通常1～2年、その後設計に入り、工事⇒完成という流れになり、基本構想の検討を始めてから工事が完了するまでに、一般的には5年程度の時間をかけている、という意味である。

委員： 資料2に「ユニバーサル」という表現があるが、どのような意味か。

事務局： “誰にでもやさしい” という意味で、バリアフリーという概念よりさらに広い意味合いで使われる言葉である。

委員： 文化交流機能が現在の和東町には無いので、今回の施設の中で検討されるのか。

委員： その機能は老人福祉センターが担っているのではないか。

委員： 体験交流センターでも展開はされているが必ずしも十分には機能していない。場所も離れているため不便という問題もある。

委員： 3つの施設の合体に限った議論ではなく、文化や交流といった機能も含めて検討するのであれば、今回示された事例の意味も理解できる。

委員： 予算はどのように考えているのか。

町長： 今後、需要や予算も含めて検討していきたい。

委員： 国や府の予算を活用することは考えられないのか。

町長： 積極的に活用していきたい。

委員長： 例えばホール的なものを造るにしても、南山城村のような施設はイメージしないだろうと思う。たとえば“子どものためのホール” というような事も考えられるし、機能は色々あるが、和東町としての特色や規模や維持管理費も含めて、町に見合った施設を検討することはできるのではないか。

委員： 国保診療所の問題として、今後存続できるか、医者は確保できるのか、これだけの人口規模で経営的にも難しいという課題がある。医者が努めたくなるような診療所にしたい。

委員長： 公民連携という考え方もある。公共と民間が一つの施設で展開するということも考えられる。

町長： 安全・安心というキーワードも重要であり、今回の施設が住民にとって安全・安心の拠点でもあったらいいと思う。

委員： 和東町にも夢があるものが欲しいし、この施設にも期待したい。

委員： 国保診療所、社会福祉センター、老人福祉センターの3つの機能に合わせ、コンパクトな“文化”的な機能も複合させるとというのが望ましい。但し、場所については、防災（水害）の問題も検討する必要がある。

委員長： 身の丈にあった施設という考え方は大切である。

委員： 今年度にとりまとめを考えていくのであれば、ある程度議論の対象を絞り込んだ方がよい。

また、ホールを検討するにしても何人くらいを対象にしたものか、といった具体的な議論を詰めていくべきだ。

委員長： 確かに徐々に詰めていく必要があり、今後ワーキングチームでも検討していくことになると思う。おそらく、3つの施設の集約化は基本的な方向になると思うが、あえてその必要性はないとか、もっと別のものを考えるべきといった意見があれば、是非聞かせて欲しい。もし、それに異論がなければその方向で検討を進めていきたい。

委員： 資料2の2頁の図面の貼り付けで下の字が見えない。大事な部分だと思うので、修正していただきたい。資料3の資料にあるが、3つの施設について、何ができて何ができてないのかということ、また、何が課題なのかということをもう少し明らかにする必要がある。

委員： 3つの施設の現在の機能は全て必要だと思う。さらにこれに加え、ふれあいサロンの「高齢者の居場所」が必要である。

委員： 3つの施設を合体した場合、どこに整備するのかという場所の問題は今後議論する必要がある。

委員： 現在提示されているような10の機能は必要だと思う。なお、これからは子どもや子育て世代への対応は非常に重要になり、「子どもも高齢者も」という視点が必要だし、さらに子どもと高齢者の交流という視点も必要だ。

委員： 和束町の高齢化率も50%近くなっており、高齢者が外に出て活動のできる拠点づくりはとても大事なことである。また、認知症対策も合わせて考えていけるような施設が望ましい。

委員： 役場は防災上安全なのか。

事務局： 現在見直しが行されているところではあるが、現状の判定では浸水想定や土砂災害の区域には入っている。但し、これまで役場が浸水した事はない。今後どのような機能を有した施設になるかによって場所も議論されてくるが、役場との連携も不可欠であり、役場と離れた場所になるとまた問題もでてくる。場所の議論は基本計画の部分も含んで一定の時間をかけて検討していきたい。

委員長： 本日出た意見や、今後進めるべき主な作業としては以下の点に集約される。

- ① 現状を正確に最新のデータを整理し、課題を明確にする。
- ② 小さいけれど夢のある施設づくり（文化・交流・まちのシンボル等）を目指す。
- ③ 災害対策の視点も押さえておく必要がある。
- ④ 施設の整備・運営に当たっては官民連携の視点も含めた検討が必要である。
- ⑤ 高齢者対応は重要な視点であるが、併せて乳幼児や多世代交流の視点も含めていきたい。
- ⑥ 今年度は、これらを踏まえ、基本構想として大きな方向付けまでの検討とする。

8. その他

事務局： 第2回検討会は、平成31年1月の下旬から2月の上旬を予定している
ので、日時が確定したら連絡をさせていただく。